

1か月予報 (7/2～7/29 までの天候見通し)

令和4年6月30日発表

	コメント	気温	降水量
1週目 (7/2～8)	前線や湿った空気の影響で曇りの日が多いでしょう。期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる所もある見込みです。	高い	ほぼ平年並
2週目 (7/9～15)	前線や湿った空気の影響を受けにくいので、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	高い	
3～4週目 (7/16～29)	天気は数日の周期で変わって来ます。	平年並～高い	

※今年の梅雨入りは6月15日です。平年の梅雨明けは7月28日頃です。(昨年梅雨入り6/19、梅雨明け7/16)

■今月のポイント ～単収・食味UPを目指して～

- ① 水管理：7月中旬から冷害回避に備え、深水管理ができる準備をしましょう。
- ② 追肥：生育ステージと幼穂形成期の葉色を見極め、適期に適量を施用しましょう。
- ③ 病害対策：穂いもち予防剤は適期散布を実施しましょう。
- ④ カメムシ対策：7月24日までに草刈りを行いましょう。

生育状況

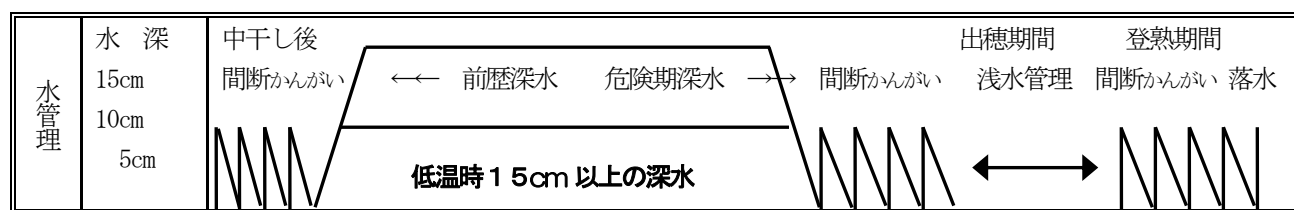
7月4日現在の生育状況は、葉数から見て2～3日遅れております。草丈は平年より長く、茎数は平年より少なくなっております。

稲の栄養状態について、稲体窒素濃度は平年よりやや多いですが、土壌中アンモニア態窒素は平年並みとなっております。7月の気温は平年並みから高いと予想されており、生育の進展とともに葉色の低下や土壌窒素の消耗が見込まれます。よって、圃場の葉色や生育を見ながら追肥量を調整しましょう。

箱施用剤の殺菌効果が切れてくる時期になりますので、穂いもち予防剤を散布して圃場の観察、見回りを実施しましょう。

今後のスケジュール ポイント①：7月中旬から冷害回避に備え、深水管理ができる準備をしましょう。

17℃以下の低温が予想される場合は、深水管理を実施し稲体を保護してください。



生育時期	幼穂形成期迄	幼穂形成期	減数分裂始期～減数分裂終期	出穂期	穂揃期	登熟期
本年予想日		7月11日頃～	7月21日頃～	8月4日頃～		
水管理	間断かんがいする。	4～6cmの水深とする。幼穂の伸長に合わせて徐々に水深を深くする。低温が予想される場合は10cm以上の深水にする。	低温が予想される場合は15cm程度の深水にする。低温時は15cm以上の深水とする。全く低温の心配がない場合は間断かんがいとする。	出穂開花期は、稲が大量の水を必要とするので受粉障害が発生しないように田面を露出しない(3～5cm程度の浅水管理とし、落水状態は避ける)	穂揃後～登熟初期に気温が日中30℃以上(夜間が23℃以上)の高温の場合は乳白が多くなります。 ★高温時の対策 ・夜間のかけ流し ・夜間間断かんがい(夜:入水 朝:自然落水)	落水時期まで間断かんがいとする。(徐々に入水期間を短くし、田面が湿っている程度とする。)
穂いもち	圃場巡回	予防剤散布	圃場巡回(いもちが見られる場合は、直ちに茎葉散布)			
カメムシ	畦畔等の草刈(出穂10～15日前まで)			薬剤散布 穂揃1週間後		

※穂揃期～登熟初期の高温は乳白粒発生の要因となるので、特に水管理には注意しましょう！

監修：奥州農業改良普及センター

展示圃の生育状況 (7月4日調査) 1株：5本植え ※茎数は1株当りの本数

	ひとめぼれ(平均5月7日田植)			金色の風(5月8日田植)		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉数	草丈(cm)	茎数(本)	葉数
7月4日	58.0	27.9	10.5	55.8	28.7	10.1
平年値	53.5	34.1	10.8	50.9	29.3	10.0
平年差	+4.5	-6.2	-0.3	+4.9	-0.6	+0.1

※平年値とは、過去5年間の値を平均したものです。

今後の生育予想 (水沢地域 7月4日現在) 幼穂形成期・減数分裂期の確認をしながら管理しましょう。

	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
本年	7月11～12日頃	7月21～22日頃	8月5～6日頃
平年	7月10日	7月20日	8月4日

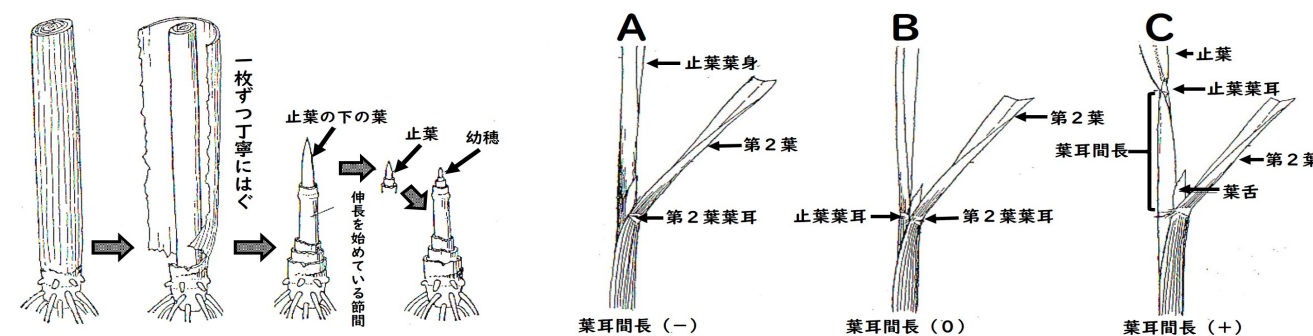
生育の見分け方

■ 幼穂による見分け方 ■

生育経過	出穂前日数	幼穂長
えい花分化期	27～28日前	1mm
幼穂形成期	23日前	2mm
減数分裂期	16～7日前	50mm

■ 葉耳間長による減数分裂期の見分け方 ■

	生育経過	出穂前日数	葉耳間長
A	減数分裂 始期	16日前	-10cm
B	減数分裂 最盛期	11日前	± 0cm
C	減数分裂 終期	7日前	+10cm



追肥 ポイント②：幼穂形成期に葉色を確認し、適量を施用しましょう。

- ① 圃場の生育状況(葉色)・(幼穂長2mm～)を確認してから追肥(窒素成分で1～2kg/10a程度を上限)をしましょう。
- ② 減数分裂期でも葉色がさめない場合は追肥を行わないようにしましょう。
- ③ 楽々ライ夢くん20一発などの緩効性肥料(セラコート肥料)を使用した場合は、追肥は行わないようにしましょう。
- ④ 出穂期以降の追肥(8月に入ってから)は食味を低下させる原因となるので、絶対に行わないようにしましょう。
- ⑤ 追肥は乳白粒発生を抑える重要な管理方法となります。夏の暑さを乗り切るためにも、適正な施用を行いましょう。



カラースケールを活用し、適正な追肥を行いましょう！資材センターで取り扱っています。



1. 追肥の施用時期と施用量（成分量）の目安（ひとめぼれ） (10a当り)

カラスケール基準値	幼穂形成期 (出穂23日前)	減数分裂期 (出穂11日前)	追肥の考え方
4.0未満	窒素成分量 1.0kg~2.0kg		幼穂形成期 1.0kg、減数分裂期に 1.0kg と 2回に分けて追肥を検討（窒素成分量 2.0kg を上限）。
4.0~5.0	窒素成分量 1.0kg~1.5kg	-	幼穂形成期を重点に追肥を実施する。
5.0を超える場合	-	窒素成分量 1.0kg	※葉色がさめるのを待ち、減数分裂期までに追肥を実施する。

※ 葉色だけで判断せず、草丈、茎数を加味して総合的に判断しましょう。判断が難しい場合はJAにご相談ください。
 ※ 基本、幼穂形成期は出穂25日前、減数分裂期は出穂15日前となります。

2. 追肥肥料現物量の目安 (10a当り)

栽培	肥料名	窒素成分で 1.0kgの場合	窒素成分で 1.5kgの場合	窒素成分で 2.0kgの場合
特別栽培米	ふるさと有機入り水稲追肥	10kg	15kg	20kg
ふるさと純情米	NKC-6号	6kg	9kg	12kg

※特別栽培米「ふるさと有機入り水稲追肥」は現物で上限が20kg/10aとなります。超えないようにご注意ください。
 例)すでに現物で10kg/10a追肥した場合は、今回は残り10kg/10aの範囲での追肥になります。
 肥料を間違えたり、使用量を超えると特別栽培米から外れますので、ご注意ください。

病害対策 ポイント③：穂いもち予防剤は、適期散布を実施しましょう。



1. 穂いもち予防剤

区分	薬剤名	防除時期	散布量/10a	注意点
特別栽培米	ゴウケツ 1*粒剤	出穂25~15日前	水面施用 1kg	【ゴウケツ・フジワン共通】 ・1*粒剤及び粒剤は3cm程度の湛水状態で散布。 ・パックは10cm程度の湛水状態で投げ入れる。 ・散布後7日間は止水とする。
	ゴウケツ 粒剤		水面施用 3~4kg	
	ゴウケツ パック		水面施用 45g ×小包装10パック	
ふるさと純情米	フジワン 1*粒剤	出穂20~10日前	水面施用 1~1.5kg	
	フジワン 粒剤		水面施用 3~5kg	
	フジワン パック		水面施用 75g ×小包装10~15パック	

※特別栽培米は「ゴウケツ」のみ使用可能となります。また、ふるさと純情米については、上記薬剤以外の使用も可能ですが、春肥料施肥設計指導会資料の「令和4年度ふるさと純情米農業指定品目一覧」をご確認の上、使用願います。
 ※無人ヘリ防除は「ゴウケツ」の散布となります。

2. 葉いもち茎葉散布（治療剤）

※葉色の濃い部分、例年発生する水田、転作から復元した水田は特に注意して観察してください。
 なお、**いもち病の発生を確認した場合は、直ちに治療剤を茎葉散布しましょう。**

※特別栽培米で、**いもち病の茎葉散布剤を使用した場合、ふるさと純情米になりますが防除を最優先にしましょう。**
 ※農薬ラベルを確認し（使用時期・使用回数）、同一成分を含む薬剤の連用はしないようにしましょう。

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	本剤の使用回数	散布量/10a
ダブルカット粉剤3DL ダブルカットフロアブル	発生を確認したら散布。 状況に応じて2回目は7日~10日後に散布	穂揃い期まで	2回以内	*粉剤 3~4kg *フロアブル
ブラシン粉剤DL ブラシンフロアブル	※但し、同じ薬剤の連用は避ける	収穫7日前まで	2回以内	1000倍液 60~1500

3. 紋枯れ病対策

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	本剤の使用回数	散布量/10a
バリダシン粉剤DL	出穂直前~出穂期	収穫14日前まで	5回以内	3~4kg 散布
バリダシン液剤	出穂直前~出穂期	収穫14日前まで	5回以内	1000倍液を60~1500

※特別栽培米でも使用可能です。
 ※水口側、水尻側で25株ずつ計50株観察し、発病株数10株以上あれば防除を行いましょう。

カメムシ対策 ポイント④：7月24日頃までに草刈りを行いましょう。



1. 耕種的防除

※畦畔の草刈りが基本です。水田にカメムシが寄りにくい環境作りが大切です。
 ※カメムシは**イタリアンライグラス、ノビエ、シズイ・ホタルイ等イネ科植物を好み穂に産卵します。**

特に出穂10日~15日前(7月24日頃)までに、カメムシの発生源となるイネ科植物を中心とした雑草等(転作牧草・畦畔・農道含む)を、地域一斉に刈り取ることが効果的です。

※出穂してからの草刈りは、カメムシを水田内に追い込むことになるので避けましょう。

籾ひとつでも顔を出したら、その茎を「出穂した」と判断します。



2. 使用薬剤

薬剤名	防除時期	散布量/10a
スタークル粉剤DL	1回目 穂揃1週間後	3kg
スタークル液剤10	※2回目 1回目散布から2週間後	1000倍 60~1500
スタークル粒剤	穂揃期(出穂から3~5日後)	3kg
スタークル1*H粒剤		1kg

※粒剤は粉剤、液剤と比べて散布時期が早いので、生育状況に合わせて適切に使用しましょう。

- ① 特別栽培米は、スタークル剤を1回のみ使用できます。
 ふるさと純情米は、スタークル剤を2回まで使用できます。
- ② 【共通】水田内でノビエ、シズイ、ホタルイ等が発生している場合は抜き取りましょう。
- ③ 【粒剤】湛水で散布(水深3cm程度)、散布後4~5日は水を移動させないようにしましょう。
 【粒剤】発生密度が高い圃場や水田雑草が多い圃場では使用しないようにしましょう。
- ④ 【粉剤・液剤】額縁散布(畦畔の周りのみの防除)は効果が劣るので、必ず圃場全面に薬剤散布をしましょう。
- ⑤ 地域一斉散布(集落内で散布日を決める)により防除効果が向上します。

■水稲の栽培、農業使用等に関するお問い合わせは…

「営農アドバイザー携帯電話」 090-4478-9921(阿部) 090-4478-9924(佐藤) 090-4478-9922(青木)
 「水沢地域センター営農経済課」 24-5106

■生産資材・生活資材のご注文・配達…

「拠点配送センター」 0120-516-911(フリーダイヤル)

■生産資材等の直取り・窓口供給は…

「水沢資材センター」 26-2112
 平日営業時間：午前8:30~午後5:00
 休日営業時間：6月~10月 毎週土曜日 午前8:30~正午
 ※期間を通し祝祭日は休業です。

■奥州エフエム(77.8MHz)では毎週月曜から金曜日朝7:52からと夕方17:42から営農情報や緊急情報を放送しています。
 是非、ご視聴よろしくお願います。



LINEにて営農情報を発信しています!上記QRコードからお友達登録をお願いします。
 ※QRコードを読み込めない場合は、「@703kysml」で検索をお願いします。